

## J R南武線連続立体交差事業に関する地域勉強会（第9回）

日時：平成30年10月30日（火）

18時00分～

場所：中原区役所 5階 第502会議室

### 次 第

<開 会>

- 1 第8回の主な意見と基本的な考え方について . . . 資 料 1
  
- 2 公共空間の利活用について . . . 資 料 2
  
- 3 まちづくり方針における戦略的誘導地区について . . . 資 料 3
  
- 4 その他

<閉 会>

## 第8回の主な意見と基本的な考え方について

## 1 JR 南武線連続立体交差事業のスケジュールについて

- ① 南武線連続立体交差事業のスケジュールについて、都市計画決定が平成30年度から平成32年度に遅れたということか。  
⇒都市計画決定時期については、皆さまからのご意見や有識者のご意見を伺うなど構造工法の選定に時間を要したため、平成30年度から平成32年度に見直しをさせていただきました。そのため、今年度より前倒して用地測量を実施させていただき、事業期間全体の短縮を図って参ります。
- ② 用地測量の住民説明会は何回くらい実施したのか。  
⇒用地測量を実際に入らせていただく南武線沿線西側の町内会と、用地測量は行わない沿線東側の町内会合わせて30回以上予定しています。8月中には、すべての町内会で実施する予定です。
- ③ 説明会の開催案内についての回覧板が説明会後に回ってきているところもあった。もっと早く情報を発信しなければ皆に伝わらない。また、新しく建て替えなどを行っているところもあり、買収に時間を要することになる恐れもあるため、スケジュールなど出せる情報を早めに出していただきたい。  
⇒事前に周知が行われるように、極力早い情報の発信を行うようにいたします。また、地元の皆様には、引き続き情報発信に取り組んでまいります。
- ④ 用地測量の説明会に出席したが、町内会には対象の家があるにも関わらず立ち退きの補償の詳細についての説明がなかった。もう少し気配りをしていただきたい。  
⇒用地測量の境界立会時などに、同行する職員で補足等をさせていただきます。
- ⑤ 用地買収について、代替地は市が用意してくれるのか。また、買収の対象戸数と交渉の進捗状況はどうなっているのか。  
⇒代替地ではなく、金銭補償をさせていただくこととなります。用地交渉についてはまだ開始しておりませんが、対象戸数は400戸以上になります。
- ⑥ 今後も事業スケジュールが変わる場合は、勉強会等で説明があるのか。  
⇒説明させていただきます。
- ⑦ 都市計画決定は、南武線と街路計画についてとなるのか。  
⇒都市計画決定は、南武線連続立体交差事業の都市高速鉄道と、関連する街路整備としての都市計画道路、既都決の都市計画道路の変更をあわせて行います。
- ⑧ 南武線沿いには、町工場が多くあったので、土壌汚染、アスベストなどの対応についても必要となる  
⇒御意見を参考に今後対応させていただきます。

## 2 南武線沿線まちづくり方針の策定について

### 3 平成29年度地域勉強会内容の確認

- ① 平間駅と向河原駅前の踏切混雑緩和対策がかかっているが、大田神奈川線を一方通行とするような、抜本的な対応が取れないものなのか。また、向河原駅前の迂回路について仮線路を施工する時にはどうなるのか。

⇒平間駅について、一方通行等にできないかということについては、市が決められるものではないため、交通管理者である警察との協議が必要となります。また、現在両側通行のものを一方通行にするのは難しいと想定されますが、今後そのような意見があったことを警察と協議する中で、お伝えし対策を検討してまいります。

人道跨線橋の案内看板については、抜本対策ではございませんが、今できる対策として少しでも踏切の混雑緩和となるよう周知をさせていただいております。

向河原の迂回路については、仮線路時の施工計画時に迂回路を西側に寄せるなどし、残せるように検討してまいります。

- ② 平間駅の案内看板の設置前後で、効果はあったのか。

⇒看板設置前後に計測は行っております。今後、来年度初めなど人が入れ替わる時期にビラなどを配り、引き続き効果を確認してまいります。

- ③ 看板の高さが高く見にくく、また、内容がパッと見てわかりにくいので、効果を上げるためには別の施策をたてたほうが良いのではないのか。

また、踏切のところに警察の人がいるときには、踏切をきちんと待つようになるので、別の施策を考えていただきたい。

⇒御意見を参考に、マナー向上キャンペーンや警察との連携が取れないか等を検討してまいります。

## 4 将来を見据えた地域課題に向けた取組について

- ① 以前行われた鹿島田の再開発跡地について、町内会からいろいろと意見、要望を挙げたが、実現しなかった経緯がある。これから、まちづくりをもう一回やろうと言われても、なかなか地元としては前向きになれない。

また、別の問題として、商店街にも対応するだけの力がなくなっているのが実情である。

- ② 以前の再開発における広場整備の際に、ぬくもりのある木製ベンチなどの設置を要望したが、実際には、パイプでできた高いベンチが整備され、お年寄りや小学生などが座りにくい状況となっている。また、地元からは防災のことを考え、簡易トイレやテントが建てられるような広場を要望したが、実施には緑被率の関係から実現されなかった。

見掛けが綺麗な広場を整備しても、住民の意見が反映されていないのであれば、実際はそれが住民のためになっているとは思えない。

示される方針案や資料についても同様で、具体的なものが見えない。

商店街などが、川崎市の管理する広場などをイベントで使用するため貸してほしいと要望したときに、有料と言われたと聞いている。それでは、広場の利活用などで行政と協力することは実際には難しいのではないのか。

⇒鹿島田の駅前広場については、休憩スペースが無いといったご意見は地元から寄せられており、また、川崎市の管理地の利用についても一定のルールが設けられているため、使用料が発生する場合や、使用に際しての制限が設けられています。

地元の方からの使いにくい、というご意見については真摯に受け止めさせて頂き、今後の南武線沿線のまちづくりについて、30年後を見据えて、行政として他都市の事例も参考にしながら、駅前の空間などをどのように利用し、住みやすいまちづくりとしていくか、またどのような枠組みが必要なのか、可能なのかなどについて、地元の皆様と連携しつつ、様々なトライアルを進めることで、探って

いきたいと考えております。

- ③ ぜひ地域の元気につながる広場の利活用を考えてほしい。
- ④ 鹿島田について、駅前の大規模な土地利用転換が見込まれる土地をはじめとして、市として、高架後の将来像はどのように考えているのか。  
鹿島田地区は公園が少なく、避難場所がない。8000人が住んでいる地域に、有事の際に有効な避難場所等がない現状をどのようにしていくつもりかを示してほしい。  
⇒土地利用転換が見込まれる土地に、どのような機能を配置するかについて、これから検討を進める段階であり、現時点で川崎市から具体的な将来像を示すことができる状況ではございません。  
しかし、該地域については建物が密集し、人口が増加している一方で、駅前に空間がないという実態があることから、今後のまちづくりの展開にあわせて、人々の憩いの場や、防災機能を併せ持った広場などの空間整備も検討していきたいと考えております。
- ⑤ これまでの勉強会でも話が出ていたが、鹿島田には人口規模に対応した投票所がない。まちづくりを考えていく中では、そのような機能の整備についても検討してほしい。
- ⑥ まちづくりの基本方針において、安全、安心なまちづくりとあるが、何を優先しているのかわからない。地下駐輪場、コミュニティバスなどの具体方策を、まちづくりの中にどのように盛り込んでいけるかが重要であるとする。

## 5 その他意見

- ① 地域勉強会はいつまで行うのか。  
⇒まちづくり方針の策定が完了するので、基本的には、今年度で完了する想定をしておりました。今後の開催につきましては、御相談をさせていただきます。